



第86回 KaSpI 宇宙セミナー



「ブラックホール撮影の最前線：地上観測の現状と衛星観測への期待」

日時：2025年7月3日（木）18:30～20:00

場所：大阪公立大学文化交流センター（梅田サテライト）

講師：本間 希樹 氏（国立天文台教授・水沢 VLBI 観測所所長）

主催：関西宇宙イニシアティブ・大阪公立大学宇宙科学技術研究センター

協賛：日本航空宇宙学会関西支部

関西宇宙イニシアティブ・大阪公立大学宇宙科学技術研究センター

第86回KaSpI宇宙セミナー

ブラックホール撮影の最前線： 地上観測の現状と衛星観測への期待

【日時】2025年7月3日(木) 18時30分～20時00分

【会場】大阪公立大学 文化交流センター（梅田サテライト）

【講師】本間 希樹 氏（国立天文台教授）

EHTが観測したブラックホールシャドウの画像
©EHT Collaboration

2019年4月、国際プロジェクトのイベント・ホライズン・テレスコープ(Event Horizon Telescope)が、楕円銀河 M87 の中心にあるブラックホールの写真を公開して世界中で大きなニュースになりました。公開された写真にはドーナツのようなリングが写っており、その中心には「ブラックホールの影」が暗い穴としてとらえられていました。また、2022年5月には、天の川銀河の中心にあるブラックホールの写真も公表され、M87 の場合と同様の姿が捉えられました。本講演では、同プロジェクトで日本の代表を務める講師が、これまでに地上望遠鏡を用いて得られたブラックホールの写真の意義についてわかりやすく解説し、さらに人工衛星を用いた将来の観測展望についても説明します。

【講師紹介】 本間希樹（ほんま まれき）

アメリカ合衆国テキサス州生まれ、神奈川県育ち。

平成11年東京大学大学院博士課程修了。その後国立天文台に勤務し、平成27年より国立天文台教授、水沢 VLBI 観測所所長を兼務。超長基線電波干渉計 (VLBI) を用いて銀河系構造やブラックホールの研究を行っている。著書に『巨大ブラックホールの謎』（講談社）、『国立天文台教授もおどろいた ヤバい科学者図鑑』（扶桑社）。平成29年よりNHK ラジオ『子ども科学電話相談』の回答者も務めている。

右のQRコード/URLからお申し込みください。参加費は無料です。

NPO 法人関西宇宙イニシアティブ (KASPI) 事務局

〒599-8531 堺市中区学園町1-1

大阪公立大学 小型宇宙機システム研究センター内

E-mail: kaspi[at]omu.ac.jp [at]→@



<https://forms.gle/doLjb9BxwAi7HZqk7>